

平成23年度 学校法人南九州学園事業計画

本学は、平成22年度に都城キャンパスに「人間発達学部」を新たに設置するとともに、高鍋キャンパスの都城への全面移転を推進し、宮崎・都城2キャンパス体制での運営を本格的に開始した。それにより、都城市との地域連携・貢献については一定の基盤を築くことができた。宮崎キャンパスでは、管理栄養学科は定員増後の体制を整え定員確保を実現し、食品健康学科は定員割れ改善のために、学科の改革に着手した。また、短大は定員を確保しているが、今後も安定的に学生を確保するための対策を検討した。しかし、学園の根幹となる諸問題、具体的には「財政再建」「学生確保」については依然として大きな問題点を抱えたままとなっている。今年度は、これらの問題と正面から向き合い解決していく。また、懸案となっている高鍋キャンパス活用についてもその具体策を提示し実行していく年度とする。

他方、今回の東日本における未曾有の大災害による日本社会への影響は計り知れない。高度経済成長からバブル経済、そして高度成熟社会へと豊かさを享受し続けてきた日本は、今大きな転換点に立たされているといっても過言ではない。少子化というマーケットの縮小のみならず、日本全体として課せられた重要な課題にどう対処していくのか、今後日本の私学も多くの苦難を乗り越えていかなければならない。

このような状況下において、本学は今年度事業計画として下記の5点を掲げる。

1. 学生（顧客）主体の効率的なキャンパスの運営
2. 学生の就職支援の強化
3. 学生募集体制の再編強化の継続
4. 学園財政の早期健全化
5. 高鍋キャンパスの有効的活用

平成23年度の本学の取組としては、まず第1に「学生主体の効率的なキャンパスの運営」を掲げる。大学・短大は教職員のために存在するのではなく、常に学生のために存在し運営されるという基本的考えに立ち、教職員は学生をサポートする立場であることを明確にする。具体的には、施設設備拡充においてもしかり、教育内容充実も、全ては学生を主体として考え更新させる施策に転換する。

第2に、「学生の就職支援の強化」を図る。昨年は新卒者就職の超氷河期と言われるように、本学においても学生の就職難は厳しいものであった。就職状況の良し悪しは、学生募集の成否とも密接に関係しており、就職状況を向上させるために、就職指導や就職先の開拓にとどまらず、教育内容の改善にも取り組む。

第3に掲げるのは「学生募集体制の再編強化の継続」である。本学は志願者・入学者数

の長期低落傾向にピリオドを打つべく「人間発達学部」を新設し、学生数の増加と学園財政の早期健全化を目指した。しかし開設後2年を経過した新設学部定員充足率は60%強にとどまり、このままでは新たに赤字部門を増やしただけの結果に終わることになりかねない。マーケットの縮小と日本経済再編という厳しい環境のもと、平成22年度同様、平成23年度も継続してより一層合理的な学生募集体制の強化に努める。

第4に、「学園財政の早期健全化」を図る。これは前述した学生募集とも深く関わる問題でもある。本学は、当初平成25年度に帰属収支支出超過（赤字）解消を目指していたが、前述したことがネックとなってその実現は先送りとなる可能性が出てきた。こうした状況をふまえ、経常経費の削減にも重点を置き、人件費をも含めた経費削減の具体策を23年度中に策定し、平成24年度より実行に移す。

最後に、「高鍋キャンパスの有効活用」の取組を具現化する。本件は22年度に委員会を立ち上げ数多くの案を検討してきた。今年度はこの検討をもとに具体案を提示し、活用の実行初年度とする。